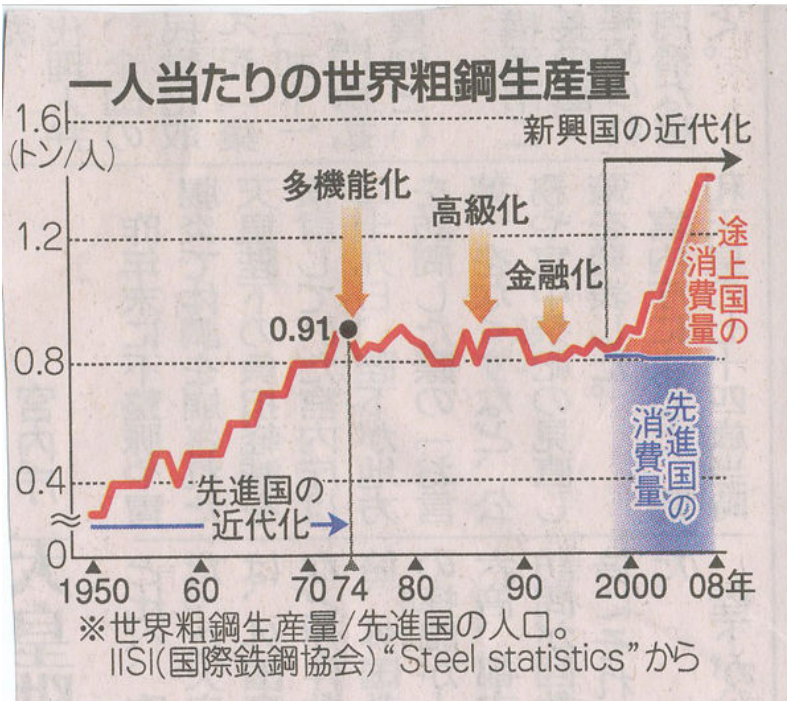


今はどこから始まっているか(ミニ・トーク資料つづき)

先進国の成長は1974年で終わり

「成長は鉄道や造船に始まり、自動車などの大量生産と消費を生み、都市化に伴うビルやマンション建設も進め、鉄の生産量に比例する。ところが1974年にピークに達し、その後は横ばい。実質的な成長はとうに終わっていた。

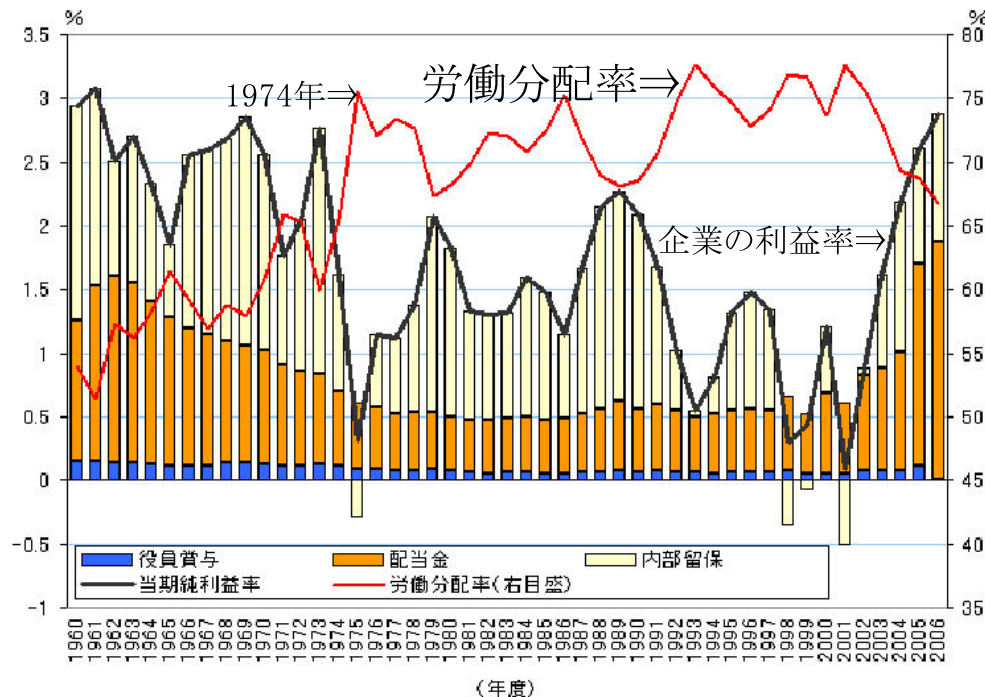


”成長信仰”を「延命」させてきたのが自動車や電化製品の「多機能化」や「高級化」。そして、「金融化」にひた走り、米国が低所得者にも金を貸しまくって破綻。極限状態に達した証し。これ以上前へは進めない。

オバマ政権で米経済は再生するのか。オバマ氏は相変わらずの成長路線。成長ではなく安定を国民に呼びかけるべきだ。

日本は、苦境が続く今、雇用と生活の不安を取り除く安全網を構築するべきだ。」(MUFGEコノミスト水野氏)

労働分配率も1974年から横ばい



労働分配率(企業の粗利益のうちの人件費の割合)は、1974年まで上昇し、企業の利益率が急落して以降、横ばい。

企業の利益率は、2000年以降急上昇(戦後最長の”景気”)したが、労働分配率は急減。

結果として今

非正規労働者は労働人口60千万人のうち4割超。

日本の最低賃金、パートタイム賃金、社会保障給付は先進国の中で最低レベル。

特に働く母親家庭の貧困率トップ。

子育ても一人当たり国民所得が同じフランスより10倍困難。